

講読資料1

うちなーぐち神奈川「サロン沖繩語入門」

現代仮名遣いで易しく読める

なぐゑーかた ていじゆんそく

名護親方・程順則の

琉球いろは歌

國吉眞正

はじめに

沖縄口の勉強会の席で、名護親方・程順則の「琉球いろは歌」のことが話題になったのをきっかけで、文献を調べてみました。

まず表記については、県外の方や沖縄の次世代の若い人たちには、読みにくい点が挙げられます。そして沖縄口独特の音についての表記は、不適切であることが分かりました。

不適切な表記で次世代の子どもたちに継承されると、沖縄口は乱れて行きます。

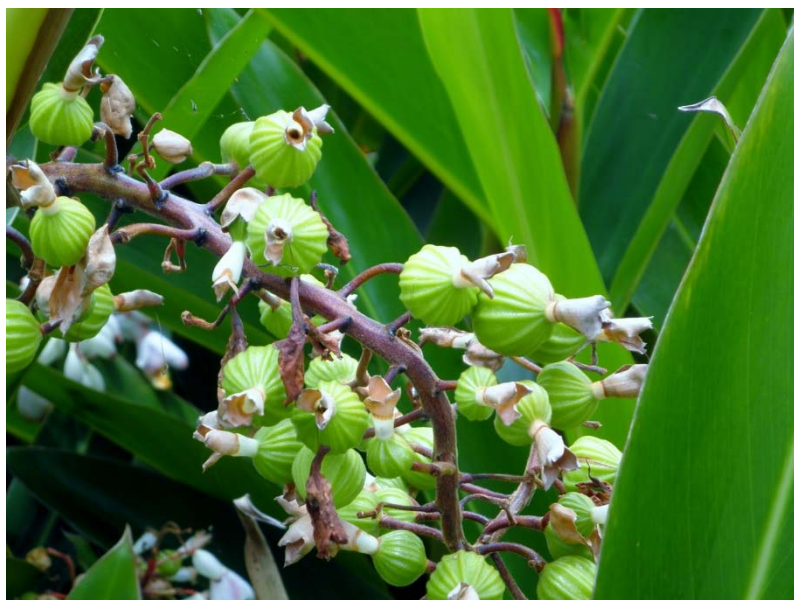
このようなことから「琉球いろは歌」を適切な表記で書き換えて整理しました。勉強会等で参考にしていただければありがたいです。

およそ300年も前に、名護親方・程順則が留学先である中国から六論衍義と言う書を刊行して持ち帰り、庶民教育のために、「琉球いろは歌」を作って道德教育を行っております。

また、六論衍義は島津藩経由で徳川将軍（八代吉宗）へ献上されて、その後全国の寺子屋で日本の道德教育の教科書にもなっています。

平成23年5月18日

國吉 眞正



さんりん(月桃)

凡例

・沖縄語独特の音を表記するため、沖縄文字を使って表記してあります。沖縄文字は、沖縄語独特の音の1音を一字で表すのが特徴ですが、「沖縄文字等対比例一覧」を十一頁に示しました。

「音」の欄の中で「？」で示しているのは、声門を閉じておいて、急に開いて発声することを意味します。つまり破裂音です。また、「・」は破裂音のないこと、すなわち不破裂音を示します。

この一覧に於いて、沖縄文字の読み方をカタカナで、「へ」を

「クワ」のように示していますが、発声する時、「へ」は、1音で「kwa」(くわ)と発声します。2音「kwa」(くわ)ではありません。「へ」は「さびら」のことを「くわ」ち「さびら」という人がいますが、間違いです。

・名護親方・程順則の「琉球いろは歌」は、琉歌でまとめられています。なぐまーかた ていじゆんぞく

文語になつていきますので、口語体の沖縄文字にさらに文語体の四字を追記して表記してあります。

・文献によつては、間違いもありますので、直して表記しました。漢字の使用について。

基本的に沖縄語の語句の読みの音と漢字の読みの音が似ていて、しかもその漢字の持つ意味が、沖縄語の語句の意味と一致しているものを使っております。

本文の5頁「な」のところで、「運たさ」と当て字を使っていますが、仮名に置き換えました。「うんたさん」という語句は、「愛される。慕われる。敬愛される。」という意味です。音が似ているだけで漢字を使うと誤解を与えます。

・「上」という漢字の振り仮名については、琉歌の8音にそろえるため、1音の「あ」と2音の「あー」を付与しているところがあります。例えば1頁の「い」のところでは、「あー」となつて、3頁の「よ」のところでは、「あ」と付与しました。

参考

なぐまーかた ていじゆんぞく

名護親方・程順則

1663年 那覇の久米村で生まれる。

1683年 通事となる。留学生として、第一回目の中国訪問。

1687年 中国から帰国。講解師匠(国が認める先生)となる。1689年 通事として第二回目の中国訪問。琉球館に三年留まる。

1691年 帰国。

1696年 進行北京大通事となる。第三回目の中国訪問。

1706年 進行正議太夫となる。第四回目の中国訪問。

1708年 「六論衍義」を中国で製版・印刷し持ち帰る。

1714年 江戸慶賀使として、与那城王子、金武王子に随行し、

江戸に赴く途中、島津吉貴公に朝見し、「六論衍義」を献上。江戸に上り、新井白石や荻生徂徠らと会見。

1718年 琉球最初の学校「明倫堂」を久米村に創設。

1719年 程順則、三司官座敷に列せられる。

島津吉貴公、「六論衍義」を徳川吉宗に献上。

將軍の命により、荻生徂徠、室鳩巢らによつて和訓され、寺子屋に於いて日本の道德教育の教科書となった。

1720年 第五回目の中国訪問。

1728年 名護間切の総地頭となり、以後は名護親方と呼ばれるようになる。

1734年 逝去。

・「六論衍義」①父母に孝行しなさい②目上の人を尊敬しなさい
村里にうちとけなさい④子孫を教え導きなさい
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
各々の生業に甘んじなさい⑥悪いことをするな

「い」

い ちんゆしぐと

意見寄言や

み ちみ に あ

身ぬ上ぬ宝

み ちみ に あ

肝に留まり

人から受ける忠言や教訓は、わが身にとつて宝である。だから、耳をよく開いて忘れないように、しっかりと心に留めておきなさい。

「ろ」

ろ かしきだ

櫓舵定みてど

すん ぼ

寸法はじらすな

ふに はし

肝ぬ手綱

櫓や舵の方向を定めて船を走らせるように、人がこの世を渡るにも、心の手綱をしっかりと握って、向かう所をあやまらぬように注意することが大切である。

「は」

は じ うみち

恥ゆ思詰まり

わ ちむをさ

我肝修みゆる

あさゆむぬぐと

かなみ む

要と思ひ

人間として恥ずべきことをよくわきまえて、あらゆる機会に自己修養をすることが、最も肝要だと思いなさい。

「に」

に くに ふと

憎さある人

ちむ む

肝ぬ持ちちなしや

に くに

憎さどんするな

ふる あ

広く開きり

憎い人であつても憎むな、心は広く持ちちなさい。

「ほ」

ほ たるび かじ

螢火ぬ影に

ゆ だん

油断さん者ど

しみなら

墨習ででんす

さ た

沙汰や残る

螢火の下に学問して油断しない人が、名声を残す。

この頁の沖縄文字(読み方||すべて一音で読む)
と||トウ、あ||ウイ、て||テイ、ど||ドウ、を||ヲウ、
ホ||スイ、ふ||フイ。

「く」

下手ふたからならど習すくて 勝すくりゆんすゆる

及うけばらんと思むて 思案しあんするな

下手だからこそ稽古して上手になるのです。とても及ばないと思つて思い惑うな。

「と」

年としぬ寄ゆててやい 徒いたじらに居をるな

一ちゆくと事とどんすりば 為たみど成なゆる

年寄りだからと言つて、むなしくのんのんと過としてはいけない。何か一事で済めば、為になるのではないか。

「ち」

知能ちぬざ才ふとある人ゆや 世なかぬ中てふんぬ手本

朝あさ夕ゆちと務とみとて 沙汰さたゆ残ぬくす

知能や才気に勝れた人は、世の中の模範である。朝夕何時も努力して沙汰を残すようにしなさい。

「り」

利根りくんいちわ偽いいや 芥子ちしぬ花はな心くる

風かじや吹ふかなてん 落うてるしじき

口先でうまく言いつくろつて、嘘をつくことは芥子の花のようなものだ。風は吹かなくても激しく散つていくものだ。

「ぬ」

何ぬが苦くりさと思むて 油断ゆだんどんするな

遍あまく働はたらちぬ あだなに成なゆみ

どうしてこんなに苦しいのだろうかと思つて油断してはいけない。一生懸命働いて骨折り損になることはない。

この頁の沖縄文字(読み方||すべて一音で読む)

ふ||ワイ、ど||ドウ、て||テイ、お||スイ、を||ヲウ、と||トウ。

「る」

るりぬ玉たまと思むて 肝ちむぬ持むちなしや

傷きじちかん間あだぬ 宝たからさらみ

るりの玉だと思つて心の持ち方を考えなさい。るりの玉は傷がつかぬうちが宝だから。

「を」

男をとこ生うまりてん 女をんな生うまりてん

油ゆ断だんさん者むねど 我わ胴どや持むちゆる

男に生まれようとも女に生まれようとも油断しないで、一生懸命働く者が、自分の身をもつことができるのだ。

「わ」

我わ身みに疵きじあらば 我わ身みぬ疵きじなおし

人ひとぬ疵きじ誹すして 益いち無ねさみ

自分に欠点があるなら、自分の欠点を直しなさい。他人の欠点を悪く言つても為にはならない。

「か」

隠かくち隠かくさりみ 人ふとぬ過あやまちぬ

急いすじ改あらたみて 我わ肝ちむ磨みがき

人の過ちは隠そうとしても隠せるものではない。急ぎ改めて己の心を磨きなさい。

「ゆ」

余ゆ所すぬ上あぬ疵きじん 余ゆ所すぬ疵きじと思むな

我わ身みぬ良ゆし悪あしや 定さだみ苦くしや

他人の欠点も他人のみの欠点と思うな。自分の善し悪しだって、はつきりと決めることは、たやすいことではない。

この頁の沖縄文字(読み方)すべて一音で読む)

と||トウ、て||テイ、あ||ウエ、を||ヲウ、

ん||ん」の破裂音、ど||ドウ、ふ||フイ、あ||ウイ。

「た」

誰たん努ちとみりば 年とし寄ゆてぬ楽らくゆ

子孫しすん寄ゆ言ごとや 為たみど成なゆる

誰でもやるべき事を一生懸命やれば、年取ってから楽になります。中でも子孫の教育は、とりわけ大切で為になる。

「れ」

礼儀りじ忘わしりりば 闇やみぬ夜ゆぬ小く道みち

我わ胸どど損すくなゆる 歩あゆみ苦くしや

礼儀を忘れると、闇の夜の小道と同じで、わが身を損ね、歩みにくいものである。

「そ」

誹すしらわん構かむな 誉ふみらわん構かむな

我わ肝む思う詰みり 朝あさん夕ゆさん

人に誹られようと誉められようと気にしないで、朝に夕に自分の心を磨きなさい。

「つ」

常ちに思う詰みり 人ふぬ習じわしや

童わらしぬ肝ちむど 地じ福ふくさらみ

常に心しなさい。人格の形成というものを。これは幼児期の心作りが基礎となっているのです。

「ね」

妬にき腹は立らちや 怪き我がぬ本むでむぬ

義じ理りゆ思う詰みみで 我わ肝ちむ締しみり

妬んだり腹を立てたりすることは、怪我のもとであるという道理をよくわきまえて、そうならないように自分の心を引きしめなさい。

この頁の沖縄文字(読み方||すべて一音で読む)
と||トウ、て||テイ、と||ドウ、ふ||フイ。

「の」

能羽ぬある者ぬ ぬふ むぬ 肝足らぬ者や ちむた むぬ

花や咲ち出らん はな さし 枯木心 かりきぐくる

芸能に勝れていても、仁徳の不足している者は、心が枯れているので、花を咲かせることはできない。

「お」

うどさはしちやさや ゆだん ふか 生まりずちでむぬ ん

油断ゆい外に ゆだん ふか 科や無さみ とが ね

賢愚は生まれつきだから、油断すること以外は、その人に罪はない。

「く」

雲や風頼て くむ かじたゆ 天ぬ果て行ちゆい てん は

人や肝しちど ふと ちむ 浮世渡る うちゆわた

雲は風を頼りとして、天の果てまで行くが、人は何物に頼るよりも、まず心を頼りとして浮世を渡るべきである。

「や」

やしやる者と思て むぬ む 人ゆ欺くな ふと あそむ

明日や身ぬ上ん あちや み あー 定み苦しや さだ くり

貧乏人だと思つても人をあざけつてはいけない。明日はわが身かも知れない。

「ま」

勝るちやさと思て まて む 人誹ら故か ふとすし ゆい

人劣り成たる ふとろし な 我肝責みり わちむし

人に勝りたいと思つて他人の欠点を見つけて悪口を言ったりしてはいけない。人をそしるよりは劣っている自分を責めなさい。

この頁の沖縄文字(読み方)すべて一音で読む)

ふ||フワ、ど||ドウ、ん||「ん」の破裂音、ぶ||ツイ、と||トウ、て||テイ、ふ||フイ、あ||ウイ。

「げ」

怪我きがぬ源みなもとや 酒さけと色いろ好このみ

あざゆうみす

朝夕あさゆふ思おも染そみり 按あ司じん下げ司しん

酒と色好みは、人生における失敗のもとであるから、上の者も下の者も、そのことをよく心にとめておきなさい。

「ふ」

仏ぶつ神しんでふすん 肝ちむぬ上あぬ捌さばち

まくと

誠まことゆい外ふかに 神かみや無ねさみ

仏や神と言っても心の中で決めることで、誠以外に神はない。

「い」

黄くがに金さ挿きち居きてん なんじや挿さち居きてん

肝ちむぬ持むちなしど 飾かざいさらみ

黄金のかんざしをさしていても、銀のかんざしをさしていても、それがその人の飾りとはならない。心の持ち方こそ本当の飾りである。

「え」

得い手てぬ物ものと思おもて 自じ慢まんどんするな

ふど

人ひとぬあざ笑わや 毒どくど成なゆる

得意のものと思つて自慢などするな。人から嘲笑されて身の毒になるばかりだ。

「て」

手て墨すみ勝すくりてん 知ち能ぬ才ざ勝すくりてん

ちむ

肝ちむど肝ちむさらみ 世し界けぬ習なれや

学問に勝れていても、知恵や才能が勝つていても、心が肝賢です。これが世の中のならわしなのです。

この頁の沖縄文字(読み方)すべて一音で読む)

と||トウ、て||テイ、オ||スイ、あ||ウイ、を||ヲウ、ビ||ドウ、
い||い||の不破裂音、ふ||フイ。

「あ」

あし たわむ

遊び戯りぬ

ちむ す

肝に染でからや

い ちんゆしぐと

意見寄言ん

い ち ね

益や無さみ

遊びごとに夢中になりふざけて、面白おかしく暮らすような習慣が身につけてしまった人には、意見や教訓になることを言ったころで、何の益にもならない。

「や」

さか うてる

栄い衰いや

なち ふゆぐくる

夏と冬心

く けー げー

繰り返し返し

ぬが ぐり

逃り苦しや

栄枯盛衰は、年毎に夏と冬がめぐりめぐってくるように、その繰り返しから、逃れることはできない。

「き」

ちむ に し

肝ぬ根ぬ締め縄

な すそ

粗相にしちからや

てしみがくむぬ

手墨学問ん

あだ な

仇ど成ゆる

心を引き締める縄を粗末にしていたのでは、手墨学問を修めようとも仇になるばかりである。

「ゆ」

ゆくあく くと

欲悪ぬ事や

ちりぶと む

塵程ん持ちゆな

ちりち

塵積むてからや

やま な

山ど成ゆる

物を欲しがる醜い心は、塵ほども持つな。塵が積もつてからは山となる。

「め」

みじら むぬ

珍さる物と

ちむ じやへ

肝に逆するな

じやく にんじん

逆や人間ぬ

きが むと

怪我ぬ基い

珍しい物だからと言って良心に逆らうような事をするな。良心をとがめるような事をする、あやまちのもとになるから。

この頁の沖縄文字(読み方)すべて一音で読む)で、||デイ、と||トウ、で||テイ、と||ドウ、ち||スイ。

「み」

み な ち な
見慣り聞ち慣りや 覚らじに染むん
す そ あ ふと すば を
粗相に有る人ぬ 側に居るな

見たり聞いたりしていると、知らないうちに染まっていくものである。だから物事をおろそかに扱うような人の側にはいない方がいい。

「し」

し すん ゆし ぐと
子孫寄言や 油断どんするな
いぬち いと な む
命ちながする 糸繩と思り

子孫の教育は、油断してはならない。家系をつないでいく大事な仕事だから。

「か」

いーか じか
絵書ち字書ちや 筆先ぬ飾い
ちむ ん まだま あせゆみが
肝ぬ上ぬ真玉 朝夕磨き

絵や字の上手というものは、筆先の飾りである。人の飾りは心であるから、朝夕磨きなさい。

「ひ」

ふと むぬぐと
人や物事に 我ん勝いと思て
じまん むぬ ばか な
自慢する者や 馬鹿ど成ゆる

人間が自分の方が物事に勝れていると思つて自慢する者は、愚者になるだけである。

「む」

むり じんかに
無理ぬ銭金や 仇ど成て行ちゆる
じり うみち むり
義理ゆ思詰みて 無理にするな

何事でも無理という限界を超えた場合、その結果はよいことはない。心のもとなわれない金銭の取り扱い方は、仇になつていくという事をよくわきまえて無理をしてはならない。

この頁の沖縄文字(読み方)すべて一音で読む)

ふ||フイ、を||ヲウ、と||トウ、ど||ドウ、す||スイ、い||イの
不破裂音、で||デイ、あ||ウイ、て||テイ。

「せ」

しきんた なみ

世間立つ波に

わた み ふに
渡る身ぬ船や

ちむ かじ

肝ど舵でむぬ

すそ む
粗相に持ちゆな

世間という広い荒波を渡るといふ事は、並大抵のことではない。それには心が舵だから粗末にはいけない。

「す」

すく ぶすく

勝り不勝りや

ちむ
肝からどやゆる

にん い むぬ

念ぬ入る者に

ふた ね
下手や無さみ

物事の上手下手は、その人の心がけ次第である。念を入れる者に下手はいない。

この頁の沖縄文字（読み方||すべて一音で読む）
と||ドウ、ふ||フイ。



富盛石彫り大獅子（沖縄県指定有形民俗文化財）1689年建立

八重瀬町富盛

沖 縄 文 字 等 対 比 例 一 覧

字	音	使用例	字	音	使用例
と	トウ, tu	とーい(鳥)	ゆ	ʔju	ゆん(言う)
と	ト, to	とーふ(豆腐)	ゆ	ユ, 'ju	ゆんたく(おしゃべり)
ど	ドウ, du	どし(友達)	よ	ʔjo	よーいー(おさな子)
ど	ド, do	どーぐ(道具)	よ	ヨ, 'jo	よーんなー(ゆつくり)
て	テイ, ti	てーだ(太陽)	ゐ	ウワ, ?wa	ゐー(豚)
て	テ, te	だてーん(大いに)	わ	ワ, 'wa	わーむん(私のもの)
で	デイ, di	ふで(筆)	ゐ	ウイ, ?wi	ゐー(上)
で	デ, de	でーじ(大変なこと)	ゐ	ヰ, 'wi	ゐなぐ(女)
か	クワ, kwa	かじ(火事)	ゑ	ウエ, ?we	ゑんちゆ(鼠)
か	カ, ka	かじ(風)	ゑ	エ, 'we	わじゃゑー(災い)
か	グワ, gwa	かんく(頑固)	ん	ʔN	んみ(梅)
が	ガ, ga	がんちよー(眼鏡)	ん	ン, 'N	んみ(嶺井<地名>)
こ	クイ, kwi	こー(声)	い	'i	いん(縁)
き	キ, ki	きー(木)	い	イ, ?i	いん(犬)
こ	グイ, gwi	こーく(越来<地名>)	を	ヲウ, 'u	をと(夫)
ぎ	ギ, gi	かーぎ(容ぼう)	う	ウ, ?u	うと(音)
え	クエ, kwe	えー(桑江<地名>)	え	'e	えーま(八重山)
け	ケ, ke	けー(粥)	え	エ, ?e	えーさち(挨拶)
え	グエ, gwe	えったい(ぬかるみ)	お	オ, ?o	おーじ(扇)
げ	ゲ, ge	にげー(願い)	を	ヲ, 'o	をーじ(王子)
ふ	フワ, hwa	なーふ(那覇)	す	スイ, ?si	すがた(姿)
は	ハ, ha	はな(花)	し	シ, si	しち(七)
ふ	フイ, hwi	ふーと(いるか)	ず	ズイ, 'i	ずんぶん(知恵)
ひ	ヒ, hi	ひや(威勢の声)	じ	ジ, zi	じー(字)
ふ	フエ, hwe	ふー(南)	ち	ツイ, ?ci	ちち(月)
へ	ヘ, he	へい(目下への呼びかけ)	ち	チ, ci	ちー(血)
や	ʔja	やー(お前、君)	ぢ	ヅイ, ?zi	みかぢち(三日月)
や	ヤ, ja	やー(家)	ぢ	ヂ, zi	ちぢん(鼓)

音記号は沖縄語辞典(国立国語研究所)による。「ʔ」は破裂音、「'」は不破裂音。
 破裂不破裂の区別は単語の語頭だけ、語頭以外では通常の文字を使用。例、とーい(鳥)。
 「す」以下は文語用、口語では「す→し、ず→じ・ぢ、ち→ち、ぢ→ぢ・じ」となる。

参考文献

- ・ 沖縄の黄金言 山城菊江解説、豊平峰雲書、沖縄総合図書
- ・ 名護親方・程順則の「琉球いろは歌」 安田和男著
- ・ 残しておきたい昔言葉 沖縄の名言 伊良波長傑解説、外間峻岩書、郷土出版
- ・ 船津好明著 論文「沖縄語の普及と表記の方法に関する研究」2007年10月
- ・ 船津好明著 論文「沖縄語教育研究」2010年6月
- ・ 沖縄語辞典「国立国語研究所」
- ・ 広辞苑「岩波書店」
- ・ 新公用文用字用語例集「内閣総理大臣官房総務課監修」

現代仮名遣いで易しく読める

なぐゑーかた ていじゆんそく

名護親方・程順則の琉球いろは歌

編著 國吉眞正

発行時期 平成二十三年五月十九日

発行所 沖縄言語教育研究所

連絡先

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

電話&Fax 044-988-8065

e-mail hasama-kuni@nifty.com